

礼拝塚(ぬかづか)と春木

山中吾朗

春木泉町の団地の敷地内に「礼拝塚古墳跡」と刻まれた石碑があることをご存知でしょうか。ここにはかつて礼拝塚と呼ばれる古墳があったのです。大正時代にこの場所に和泉紡績会社が工場を建てたため、古墳の墳丘は削られてしまい、今では石碑以外にこの地に古墳があったことの痕跡はなくなってしまいました。

この近くには西福寺という浄土宗寺院があります。遅くとも室町時代初めには建立された古い由緒をもつ寺院です。西福寺の江戸時代中ごろの住職玉誉上人は、寺宝や古老の話しなどによって「宝鑑縁起」という西福寺の歴史を著しました。それによると、礼拝塚は西福寺の創建に功労があった大檀



那の墓であること、またこの塚の前では下馬して拝礼せねばならず、もし下馬せずに通過すればその人に災いがあることなどを記しています。礼拝塚の名前もこうした仕来りによるものでしょう。

さて、「宝鑑縁起」によればもともと西福寺も春木の集落も、現在地より七、八町東の「さと」という場所にあったが、天文 23 (1554) 年に西福寺を中興した燈誉上人が、大檀那の墓である礼拝塚に近い現在地に寺を移して、大檀那の旧恩を後世に伝えようとした、とあります。旧地を里春木村と言い、移転した先を礼拝塚春木と呼んだとも記されています。里春木は現在の春木駅付近にあたります。西福寺が移転するのに伴って、集落や神社も里春木から紀州街道沿いに移され、現在に至っています。このように、春木の歴史にとって礼拝塚は大きな意味をもっていたことがわかります。しかし、礼拝塚は古墳時代後期 (6~7 世紀) の遺

跡と推定されていますので、西福寺の創建と直接結びつけるのはさすがに無理があります。もっとも春木では奈良時代の寺院（春木廃寺）の古瓦が見つかっていますので、仮に春木廃寺の後身が西福寺だとすれば、礼拝塚の被葬者が西福寺の創建に関わった人物であった可能性も全くないわけではありません。

ところで、春木という地名について地名学的に解釈すれば、「ハル」は「墾る」または「治る」であって、新しい開墾地を示す場合が多く見られます。「キ」は場所を示す接尾語と言われています。つまり、「ハルキ」とは「新たに開墾された所」という意味になります。同様に春木に隣接する荒木の「アラ」は「新」の意味で、新たに開墾された所を意味します。また、今木の「今」も「新」と同じ意味です。これらの地域は、現在でも町の形がほぼ正方形に近いものです。これは古代の条里制の名残りと思われがちですが、泉州では奈良時代にまで遡る条里制の遺構は見つかっておらず、平安時代後期頃の土地区画と考えられています。つまり、春木・荒木・今木など条里制風の土地区画を残す地域は平安時代後期に開墾され、土地区画がなされたと考えられるのです。地名はこのような地域の歴史を伝えています。近年、市町村合併等によって各地の古い地名が失われつつありますが、古い地名も文化財として後世に残しておきたいものです。

（やまなかごろう：郷土文化室）

磯のエビ・カニ・ヤドカリ

大畠麻里

暖かくなってきたら、磯遊びに出かけてみませんか。海には潮の満ち引きがあり、一日に2回、干潮と満潮がやってきます。干満の差が大きくなる大潮の頃に出かけると、干潮時にはたくさんのタイドプール（潮だまり）ができるので磯観察には最適です。干潮時刻の2時間前に磯に行くと、じっくり磯遊びが楽しめるでしょう。

磯ではたくさんの生き物が見られますが、ここでは、人気者のエビ・カニ・ヤドカリを取り上げてみたいと思います。エビ・カニ・ヤドカリは、甲殻類の中でも胸部に10本の脚をもつ、十脚目と呼ばれるグループに属します。カニの仲間では、10本のうち2本がハサミ脚、8本が歩くのに使われる歩脚です。ヤドカリの仲間は、10本のうち後ろの4本が貝殻を支えるのに使われ、歩くのに使われる歩脚は4本、残りの2本がハサミ脚となっています。

タイドプールをのぞいてみると、最初に目につくのは動き回っているヤドカリ類です。ヤドカリにもいろいろな種類がいますので、ぜひ色彩や形態をよく観察してみてください。磯でよくみられるのは、ホンヤドカリです。しましまの触角に、靴下をはいたような白い脚先が特徴です。その他に、赤い触角と緑色の歩脚をもつケアシホンヤドカリや、それによく似て、赤い触角に緑色の歩脚をもつものの歩脚の先の方に黒い色帯があるヨモギホンヤドカリなどもみられます。これら3種は右側のハサミ脚が大きく、ホンヤドカリ科に属しています。一方で、ヤドカリ類の中には、ハサミが左右同じく

らいの大きさのものもいます。ヨコバサミとよばれる仲間です。潮だまりに多いのは、青い触角をもち、ハサミと歩脚の先端が黄色いイソヨコバサミです。じっくりと観察していると、ヤドカリが別のヤドカリの貝殻をつかんで持ち運ぶ姿を目にすることがあります。つかんでいる方が雄で、つかまれているのは雌です。他の雄に雌を奪われないようにするための行動で、ガード行動と呼ばれます。

エビ類やカニ類は物陰に隠れているのですこし見ただけではみつかりません。石をそっとひっくり返したり、岩の隙間をのぞいたりして探してみてください。磯でよく見られるエビ類には、イソスジエビやスジエビモドキなどがあります。透き通った体が涼しげなこの2種はとてもよく似ていますが、体に入る縞模様などで見分けることができ、縞模様が複雑で、そのうちの数本が背側から腹側まで伸びている方がイソスジエビです。カニ類では、磯遊びでよくみられる3種をあげておきます。まず、平らな甲が特徴のヒライソガニです(図1)。この種は個体による色彩の変異が大きく、白いものから褐色のものまでさまざまです。たくさん集めて、色や模様を比較してみるのもおもしろいでしょう。これとは対照的に、どれも同じような色と模様をしているのがイソガニです(図2)。黄褐色と濃い紫色のまだら模様で、ハサミ脚には紫色の斑点があります。さらに、イソガニに似ていて、甲に多数の横じわがあるのはイワガニという種です。



図1: ヒライソガニ *Gaetice depressus*



図2: イソガニ *Hemigrapsus sanguineus*

さて、磯で観察をしていると、「変なカニがいる！」と子どもたちが持ってきてくれることがあります。たいてい

の場合、それは石の下に生息し、平べったい体と体の割に大きなハサミ、長い触角をもつイソカニダマシです。カニ類では、ハサミ脚の他に歩脚が4対8本ありますが、カニダマシでは、一見すると3対6本しかありません。カニのような格好をしています。じつはカニダマシはヤドカリの仲間なのです。

(おおはたまり：自然資料館嘱託学芸員)

Information

岸和田城の展示案内

企画展 「岸和田モダンタイム 大正～昭和戦前期の諸相」

岸和田を舞台とする NHK 朝の連続ドラマ“カー

ネーション”が放映されることに伴い、ドラマ序盤の舞台となる大正期から昭和戦前期までの岸和田の様子を古写真や関連資料によって紹介します。

・期間：9月7日(水)～平成24年5月6日(日)

- ・時間：午前 10 時～午後 5 時（入場は 4 時まで）
- ・入場料：大人 300 円 中学生以下無料
- ・休場日：3 月 12 日（月），4 月 23 日（月）
- ・主な展示資料：「寺田甚与茂肖像画」「小川翠村筆
岸和田八景」「岸城町隣組の湯呑」
ほか 計約 40 点

きしわだ自然資料館の展示案内

第 16 回ネイチャーフォト写真展

毎年恒例の写真展です。ふだんは気がつかないよ
うな自然の姿が見られるかも。入場は無料です。

- ・期間：2012 年 4 月 8 日（日）～5 月 6 日（日）
- ・時間：午前 10 時～午後 5 時（5 月 6 日は午前 12
時まで）
- ・会場：自然資料館 1 階ホール
- ・入場料：無料
- ・休場日：毎週月曜日（祝日は開館）

【きしわだ自然友の会 会員募集】

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の
行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学ん
でいる団体です。

自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学
びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も
参加できる行事も多数あります。

学校園の授業に活用できるプログラムもあります。

- ・対象：身近な自然に興味のある個人・家族
- ・期間：4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
- ・費用：個人会員年間 2,000 円（中学生以上の方が
1 人で入る場合）・家族会員 3,000 円（同居
家族全員が対象）、特別会員年会費 10,000
円（友の会を援助して下さる人・団体）
- ・申込・問い合わせ：4 月 1 日から直接、きしわだ
自然友の会（自然資料館内
072-423-8100 へ）

春の遠足や社会見学に、自然資料館を ご利用ください。

自然資料館は、大阪南部のいろいろな自然
を紹介する自然史博物館です。

展示室には、化石などの実物標本や模型、
ジオラマ、体験コーナーなどがあり、見て、
ふれて、体験することで、身近な自然をしっ
かり学ぶことができます。

春の遠足や社会見学などに、ぜひご利用く
ださい。ご予約のうえ、減免申請書を提出し
ていただくと、教職員をふくむ全員の入場料
が無料となります。雨の場合のみの予約も可
能です。

近くには、岸和田城や城下町など、歴史の
勉強ができる施設もあります。

お願い [fromM]は、学校教職員に 1 部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等を待
ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然
環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご
投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先
までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX : (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
（Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、
簡単です）